平成１９年度　１月　校長・副校長会議　　平成２０年　１月　７日（月）

小平市教育委員会
教育長　坂井　康宣

《complete the educational reform》

競争から共創、そして響創の教育改革へ！

新年おめでとうございます

今年は、これまでと違った視点から教育を見直し、まさに創造的な学校経営を創りだす年と捉えています。これまでの既成概念に囚われることなく、社会の変化、教育に向けられた指摘や課題、保護者の願いや地域の声に謙虚に耳を傾け、これからの社会を託す子供たちへの思いを一つ一つ具体化し、豊かで夢のある学校経営に取り組んでいきましょう。

今年は、学力低下論争等から始まった教育改革への提言が具体化され、中央教育審議会より新しい学習指導要領が今月中に答申されることになっている。単に、「教科時数や学習内容の増」として捉えるのではなく、「生きる力」の育成という視点から、どんな「子供像」を描き、その実現のためにどのような教育課程を編成するのか、どんな力を子供に育んでいくのか、そのための学習内容、指導の在り方はどうあるべきか等、より具体的で実践的なプログラムをそれぞれの学校で、教職員組織の成果として独自に開発して欲しい。

そのためにも、確かな教育実践と子どもたちの活躍の場を保証する教育活動の充実に努力して欲しい。

新しい年を迎えると、誰もが新年の誓いを立て、希望に夢を膨らませる。私の在職していた学校では、３年生以上の子供たちが体育館に会し、「席書会」にて新年の誓いや希望・夢を書き初めにしたためたものである。（１，２年生は、教室にて硬筆）子供ながらに、いつもの体育館とは違う張りつめた空気の中、緊張のせいか一言も喋らず、ただ黙々と、そして神妙な顔つきで筆を運ぶ子供たちの姿は真剣そのものであったことを思い出す。

終わるとその場で学年・学級ごとに決められた体育館の壁に「書き初め」が貼られ、子供たちの初々しい「席書展」の始まりとなる。保護者や地域の皆さんにもご覧いただき、子供たちのことを知っていただく良い機会となっていた。今の子供たちは夢や希望がないとか、意思表示が苦手とか評されるが、そのことを解決するための具体的な教育活動はどのように企画され、実施されているのであろうか。教育課程や行事等の実施計画に、どの場面で、どんなことを子供に体験させ、何を任せ、どんな力を育んでいくのか。そのための教師の役割は何か。このことが明確に示されていない指導計画は、単に授業や行事をこなすだけのものに終わってしまう。校長の責任と子供への保証という視点から改めて見直

して欲しい。

以下の囲みは、平成１７年度１月の校長・副校長合同会議で示した年頭の指針である。

新年おめでとうございます

確かな教育実践と子どもたちの活躍の場を保証する
子どもたちの安全を守る対策に地域全体で取り組む
子どもたちの応援団を増やし世代間交流を促進する

学校現場の教育実践に裏打ちされた、確かな教育改革の実現に向け、マネジメントスタッフ＆パートナーの精神で、子どもたちに安心感を与え、保護者・地域に信頼される学校創り、小平の教育改革の実現を目指しましょう。今年もよろしくお願いします。

義務教育における学校の義務と責任は、教育の内容と具体的活動、子供たちの活躍の場を保証し、提供することにある。その場しのぎの授業をやっているようでは、その責任は果たせない。若い教員が増える今、単に評価のための授業観察に終わることなく、教科指導と教師養成のための授業観察にこそ力を入れて欲しい。

ところで、国の全国学力・学習状況調査、東京都の児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果については前回にも話したように、その平均点は、全国、東京都と同程度かそれ以上であるが、東京都の調査では毎年低下傾向にあり、決して喜べる状況ではない。

教育委員会だよりの１月号、２月号に国の調査結果と分析内容を掲載するが、各学校においても、自校の結果の分析と学力向上に向けた具体的な対応策を検討し、保護者や地域に示し、責任を持って取り組んで欲しい。そこで、来年度のマイスクール・アクションプログラムについては、その一つを全ての学校において学力向上に取り組むこととする。そこで、校長の指導と責任において、それぞれの学年・学級・教科ごとに、学力向上に向けた具体的な「プラン＆プログラム」を作成し、年度当初に保護者や地域の協力者に示し、年度末には、いくつかの学校が取り組んでいる総合的な教育実践報告会を開くこととする。

１．２．省略

３．地域ぐるみの安全対策について

昨年１１月の広島市、１２月の今市市における児童の殺害事件を受け、日本社会の安全神話はその信頼を全くなくし、子を持つ親への衝撃と不安は計り知れなく、地域社会の戸惑いも連日報道されている。今市市では未だ犯人を特定できず、警察行政もその対応に追われ、地域社会への不安は一層拡大している。これまでにも、「児童生徒の安全確保について」は、様々な視点から安全確保対応策をお願いしてきたところである。小学校区毎の地域の安全見守りの取り組みでは、昨年度延べ２０万人を超える皆さんに参加していただき、子どもたちの安全確保にご協力をいた

だいた。教育委員会としても小学校との連携で、昨年１０月から１２月にかけて、地域ぐるみの安全講習会「地域で守ろう子どもの安全」を市内１０地区で実施してきたところである。多くの皆さんにご参加いただき、子どもの登下校時や放課後の地域社会での子どもの安全確保に生かしていただいている。

教職員も登下校時に通学路を回り、子どもの見守りを実施している姿を目にすることが多くなった。このような取り組みが子どもたちに安心を与え、保護者や地域の協力を得ることになる。

小平第八小学校の地域では、八小青少対、地域子ども教室、八小ＰＴＡ、八小地区民生・児童委員、第八小、第三中、花南中が協力して、「子ども見守りネットワーク（仮称）」の設立の打合会を１月１２日（木）鈴木地域センターで開催する予定である。

地域ぐるみで子どもの安全を見守る地域の力が組織化されることは大変ありがたいことである。他の地域でもこのような組織が立ち上がることを期待している。

教育委員会としても昨年末に実施してきた下校時の「安全呼びかけパトロール」を三学期も実施していくために、事務局の体制を整えたところである。

登下校時や学校の安全対策については、池田小学校の児童・教師殺傷事件以来、小平市教育委員会においても積極的に取り組んできたが、その方向は行政や学校のみの取り組みではなく、「地域ぐるみの安全対策」を掲げ、地域の協力者向けに講習会を実施してきた。

この講習会を学校関係者が如何ほどに理解し、関わろうとしてきたかに現在の学校の置かれている実態がある。既に平成１７年度に、児童生徒の安全確保のために「地域ぐるみの安全対策」についての方向性を示している。また、その取り組みについての事例も紹介している。現在進めようとしている、ＩＣＴを活用して児童の安全確保を目指した「地域児童見守りシステムモデル事業」もその延長線上にあることを改めて認識して欲しい。

「地域の方が協力して取り組んでくれている。」程度の認識でこれまでの時間を費やしてきたとしたら、大変残念なことであり、これまでの学校の取り組みが評価されるところである。残された今学期、全ての小学校で実証に取り組んで欲しい。

４．小平の教育改革「学校支援ボランティア」特集号の発刊について

小平の教育改革の特徴の一つに、「学校支援ボランティア」の多彩で多様な取り組みがある。延べ三万人を超える学生や地域の皆さんの参加・参画が、総合的な学習の時間の支援はもとより、教育活動のあらゆる場面で子どもたちの学習を豊かにし、子どもたちにやりがいや充実感、成就感を与えている効果は大変大きい。ボランティアの皆さんには、「自分たちも子どもと一緒に成長しているんです。」という言葉をいただく度に、ただただ感謝するのみである。そんな皆さんの労苦に感謝の意味を込め、様々なボランティア活動のこれまでの取り組みの特集号を発刊したいと考えている。これまでの活動記録のデジタル媒体での提供や取材の協力をお願いすることがあるのでよろしく。

学校支援ボランティアの効用については今更解説する必要はないと考えている。幾つかの学校で、学校支援ボランティアコーディネーターが置かれ、その活躍の幅と輪が大きく広がってきている。平成１７年度は、延べ３万人を超えるボランティアにご協力いただいたが、平成１８年度は、述べ５万５千人を超えるボランティアの導入実績がある。学習支援ボランティアの入っている学校では、国や都の学力調査においても、地域性から推察するに、その効果は間違いなく現れている。限られた教員数でこれから学力の向上を図るには、家庭との連携や学習支援ボランティアの導入はこれまで以上に具体化していく必要がある。教育委員会としても新たな方策を検討していきたい。

既に平成８年、小平市教育委員会に勤務した時に、学校支援ボランティアについては以下のように説明し、その積極的な導入を課題としてきた。それが今に続いているのである。

学校支援ボランティア　・ゲストティーチャー
　　・アシスタントティーチャー
　　・ボランティアコーディネーター

５．新春教育懇談会によせて

教育委員、校長、副校長、教育委員会事務局幹部職員が一同に会し、新春を祝い教育の現状と課題、教育に懸ける思いや願い、夢を語り合い、明日への力を生み出すこの会は、校長会、副校長会、教育委員会の結束を確固たるものにし、小平の教育改革、各小・中学校の学校創造のエネルギーの源泉となるものである。今回からより自由に意見交換ができるようにと会場も模様替えされ、交流の活発化が期待される。大いに教育談義を深めつつ、明日の小平の教育を語り合いたいものである。

今年の三ヶ日の新聞も、昨年同様教育に関する話題や提言はなかった。あれほど教育をたたいておいて、何の提言もないと言うことに世の中の意識の在り方を疑う。

ところで、今年の話題はもっぱら環境問題であった。今、地球環境の問題は一国の問題ではなく、全世界の問題になってきている。今年は、洞爺湖サミットも開催される予定であり、地球温暖化が大きな課題になることは明らかである。以前から警鐘は鳴らされていたが、意識はしていても目前に現れないと取り組まないのが人間のなせる業であるとするならば、間違いなく手遅れになる。昨年、月探査衛星「かぐや」から送られてきた、「地球の出、地球の入り」は、大きな感動を与えた。現在確認されているただ一つの生物の住む惑星・地球を守っていくのが人間に課された大きな課題でもある。

その他

＊学校評価について　既に昨年１０月に話したように、自己評価、関係者評価、第三者評価を実施することになる。第三者評価の具体的対応については現在のところ課題である。（学校経営協議会等の参加）

＊学校事故　学校の初期対応に全力を尽くす。不信が生まれると教育委員会が対応せざるを得ないし、最悪の場合、教育活動にも影響が出てくる。

＊学芸大のスクール・インターンシップ　単位化することにより、学生の責任も生まれ、活動も定期的、継続的になる。積極的な活用を。近々協定を結ぶ。

＊栄養教諭の配置　　モデル的に、都として平成２０年度数地区配置、実施の予定。
＊個人情報の漏洩　　都立校向けの取扱いガイドラインが制定された。近々送付の予定。